

第 42 回 幹 事 会

平成 19 年 9 月 20 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

資料 1 議事次第

資料 2 出席者一覧

資料 3 非公開審議事項

資料 4 第40回、41回幹事会議事要旨

資料 5 諸報告事項

資料 6 審議事項

資料 7 「現代課題を切り拓く地理教育」

資料 8 「魅力ある都市構築のための空間緑化—近未来のアーバン・グリーン
ング—」

資料 9 「生物多様性国家戦略改定に向けた学術分野からの提案」

参考 1 平成 20 年度概算要求

参考 2 今後の予定

日 時 平成19年9月20日(木) 14:00～

議 題

非公開議事項

1 委員会関係

- ・ 分野別委員会における分科会、小委員会の設置及び委員の決定(提案1)
- ・ 医療のイノベーション検討委員会の委員の候補者の決定(提案2)
- ・ 水・食糧と持続可能な社会委員会の委員の候補者の決定(提案3)
- ・ 連携会員の辞職の承認(提案4)
- ・ 会員の所属部の決定(提案5)

2 外部推薦依頼

- ・ 委員候補者の推薦(提案6)
- ・ 第7回(2007年度)グリーン・サステナブル ケミストリー賞(経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞)候補者の推薦(提案7)

3 その他

前回幹事会以降の諸報告

審議事項

1 対外報告

- ・ 「現代的課題を切り拓く地理教育」(提案8)
- ・ 「魅力ある都市構築のための空間緑化—近未来のアーバン・グリーンング—」(提案9)
- ・ 「生物多様性国家戦略改定に向けた学術分野からの提案」(提案10)

2 規則等の改正

- ・ 日本学術会議会則の一部を改正する規則案(提案11)
- ・ 日本学術会議地区会議運営要綱の一部を改正する決定案(提案12)

3 団体の指定

- ・ 日本学術会議協力学術研究団体の指定(提案13)

4 国際会議関係

- ・ 平成19年度代表派遣について(平成19年10～12月分)(提案14)
- ・ 平成19年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱案(提案15)

5 シンポジウム等

- ・ 第151回総会日程(案)(提案16)
- ・ 公開シンポジウム「食料とエネルギーに関わる水問題」(提案17)
- ・ 第14回界面シンポジウム「エネルギーの変換と貯蔵 - 世界の趨勢 - 化石燃料の代替と地球温暖化防止のために」(提案18)
- ・ 国際共同ワークショップ「Designing Global Information Commons for Innovation in Frontier Sciences (グローバル情報コモンズのデザイン: フロンティア・サイエンスのイノベーションへ向けて)」(提案19)
- ・ 「第15回かがわけん科学体験フェスティバル」(提案20)
- ・ 日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会(提案21)
- ・ 情報学シンポジウム「情報処理で社会を守る」(提案22)
- ・ シンポジウム「日本の将来を科学・技術の視点で考える」(提案23)
- ・ 「サイエンスアゴラ 2007～みんなでつなごう未来のスイッチ～」(提案24)
- ・ シンポジウム「脳と高齢化社会」(提案25)
- ・ 日本学術会議中部地区会議公開学術講演会(提案26)
- ・ シンポジウム「日本の環境教育への提言」(提案27)
- ・ 日本学術会議北海道地区会議公開学術講演会(提案28)
- ・ シンポジウム「高度情報社会の脆弱性の解明と解決」(提案29)
- ・ 公開講演会「医療関連死を考える・解剖に基づく新たな死因究明制度」(提案30)

6 後援

- ・ 国内会議(提案 31)
- ・ 国外会議(提案 32)

その他

第 4 2 回幹事会（ 9 月 2 0 日 ）出席者一覧

会 長	金 澤 一 郎
副会長	鈴 村 興太郎
副会長	浅 島 誠
副会長	土 居 範 久

第一部	部長	広 渡 清 吾
	副部長	佐 藤 学
	幹事	江 原 由美子
	幹事	小 林 良 彰

第二部	部長	唐 木 英 明
	副部長	北 島 政 樹
	幹事	鷺 谷 いづみ

第三部	部長	海 部 宣 男
	副部長	小 林 敏 雄
	幹事	河 野 長
	幹事	大 垣 眞一郎

事務局	谷 口 局 長
-----	---------

諸 報 告 事 項

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- | | |
|------------|-------|
| 1 会長等出席行事 | P . 1 |
| 2 審議付託等 | P . 1 |
| 3 賞等の推薦 | P . 2 |
| 4 委員会委員の辞任 | P . 2 |

第 2 各部・各委員会等報告

- | | |
|--------------------|-------|
| 1 幹事会附置委員会の開催とその議題 | P . 3 |
| 2 部会の開催とその議題 | P . 3 |
| 3 機能別委員会の開催とその議題 | P . 3 |
| 4 分野別委員会の開催とその議題 | P . 6 |
| 5 課題別委員会の開催とその議題 | P .13 |
| 6 総合科学技術会議報告 | P .14 |

第 1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
8 月 1 5 日 (水)	全国戦没者追悼式	金澤会長
8 月 3 1 日 (金)	〔表敬訪問・意見交換〕 Bryan Henry (IUPAC 会長)	金澤会長、土居副会長、谷口局長、綱木次長、信濃参事官、村田参事官
9 月 7 日 (金) ～ 8 日 (土)	持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2 0 0 7	金澤会長、鈴村副会長、土居副会長、谷口局長、綱木次長、村田参事官

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議・付託先
男女共同参画学協会連絡会第 5 回シンポジウムの後援について	男女共同参画学協会連絡会第 5 期委員長	科学者委員会
「第 6 回日本社会福祉学会政策・理論フォーラム」の後援について	日本社会福祉学会会長	第一部
日本第四紀会 50 周年記念国際シンポジウム Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific の後援について	日本第四紀会会長	各部
第 33 回全国語学教育学会年次国際大会の後援について	全国語学教育学会理事長	第一部
第 7 回アジア国際地震学会連合総会の後援について	第 7 回アジア国際地震学会連合総会組織委員会委員長	第三部
大阪大学臨床医工学融合研究教育センター第 2 回国際シンポジウムの後援について	大阪大学臨床医工学融合研究教育センター長	第二部 第三部
触媒学会創立 50 周年記念「高度選択触媒作用の創出と制御に関する国際シンポジウム」(International Symposium on Creation and Control of Advanced Selective Catalysis as the celebration of 50th anniversary of the Catalysis Society of Japan)の後援について	触媒学会会長	第二部 第三部
第 29 回 IFMSS(International Fetal Medicine & Surgery Society)総会の後援について	第 29 回 IFMSS 総会会長	第二部
「科学技術と産業」国際シンポジウム 2007 の協賛について	日本貿易振興機構(ジェトロ)理事長	第三部

日本学術会議協力学術研究団体の指定について	日本語用論学会 政策情報学会 日本発育発達学会 日本植物形態学会 日本医療秘書学会 日本看護系学会協議会 パワーエレクトロニクス学会 日本化学連合 室内環境学会 日本環境毒性学会 日本景観学会 情報システム学会 全国大学音楽教育学会 進化経済学会 日本社会学理論学会 産学連携学会 大学評価学会 日本マイクロカウンセリング学会 日本鋼構造協会	
平成 19・20 年度 資格審査会委員及び同予備委員並びに懲戒委員会委員及び同予備委員の推薦について	東京弁護士会会長	第一部

3 賞等の推薦

件 名	照会先	備 考
第 24 回（2008）京都賞 基礎科学部門候補者の推薦について	各部	推薦見送り
第 7 回（2007 年度）グリーン・サステイナブル ケミストリー賞（経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞）授賞候補者推薦について	各部	第三部より推薦あり

4 委員会委員の辞任

史学委員会

高山 博（平成 19 年 3 月 29 日付）

南川 高志（平成 19 年 3 月 29 日付）

基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 I U P A B 分科会

廣川 信隆（平成 19 年 8 月 24 日付）

御子柴克彦（平成 19 年 8 月 24 日付）

地球惑星科学委員会国際対応分科会 S C A R（南極研究科学委員会）小委員会

柏木 啓一（平成19年8月10日付）

情報学委員会情報学推進分科会	佐倉 統（平成 19 年 8 月 31 日付）
情報学委員会情報ネットワーク社会基盤分科会	佐倉 統（平成 19 年 8 月 31 日付）
総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会遺棄および老朽化学兵器の安全な廃棄技術に関する小委員会	山内 博（平成 19 年 8 月 31 日付）
科学と社会委員会	村井 純（平成 19 年 7 月 31 日付）

第 2. 各部・各委員会報告

1 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) **憲章起草委員会**（第 6 回）（8 月 31 日）
素案の検討 その他

2 部会の開催とその議題

- (1) **第二部 拡大役員会**（第 4 回）（7 月 30 日）
日本学術会議・北海道大学・札幌医科大学主催 市民公開シンポジウム
「21 世紀の健康づくりと安全・安心な社会」について
各委員会、分科会の活動状況の報告について その他
- (2) **第二部 拡大役員会**（第 5 回）（7 月 31 日）
日本学術会議・北海道大学・札幌医科大学主催 市民公開シンポジウム
「21 世紀の健康づくりと安全・安心な社会の結果」について
各委員会、分科会の活動状況の報告について その他
- (3) **第三部会**（第 9 回）（8 月 9 日、10 日）
若手・人材育成問題について
1) 若手・人材育成問題検討分科会報告 2) 話題提供
3) 各分野別委員会報告 4) 討論

3 機能別委員会の開催とその議題

科学者委員会（第 28 回） 8 月 30 日（木）メールによる持ち回り開催
男女共同参画学協会連絡会第 5 回シンポジウムの後援名義について

科学者委員会（第 29 回） 9 月 10 日（月）
平成 19 年度日本学術会議主催公開講演会（第 3、4 回）
日本学術会議協力学術研究団体の指定

日本郵政公社による学術刊行物の審査協力
日本学術会議地区会議運営要綱の一部改正
日本学術会議地区会議公開学術講演会の開催
その他

男女共同参画分科会（第10回）8月20日（月）メールによる持ち回り開催

男女共同参画学協会連絡会第5回シンポジウムの後援名義について平成19年度日本学術会議主催公開講演会「脱タバコ社会の実現のために - エビデンスに基づく対策の提言 - 」を7月23日（月）に日本学術会議講堂にて開催した。平成19年度日本学術会議主催公開講演会「日本の科学研究の現状と将来 - よりよい研究環境づくりを求めて」を7月26日（木）に日本学術会議講堂にて開催した。

科学者委員会広報分科会(第20回)

前回（7/19）の議事要旨
今後の編集方針
日本学術会議パンフレットについて
その他（今後の会議日程の確認等）

科学と社会委員会（第14回）（7月31日）

「部及び課題別委員会による勧告・要望・声明・对外報告の作成手続きに関するガイドライン」の決定について 対外発出文書の名称の検討 「誕生シリーズ」について 委員の辞任について

科学と社会委員会 科学力増進分科会（第13回）（8月27日）

科学技術リテラシー小委員会の活動報告 サイエンスカフェについて
サイエンスアゴラについて 対外報告について その他

国際対応戦略立案分科会（第2回）（8月1日）

加入団体活動状況の日本学術会議HP掲載
加入国際学術団体HPにおける日本の表記
WCRP（気候変動国際協同研究計画）分担金
国内対応委員会ヒヤリング候補
分担金の負担
その他

国際対応戦略立案分科会（第3回）（9月10日）

加入国際学術団体ヒヤリング
その他

G8学術会議分科会（第5回）（9月13日）

G8学術会議について

国際委員会アジア学術会議分科会

- 第2回ウブントゥRCE 審査委員会及びRCE 国際会議への会員の派遣について
 - 1. 派遣期間： 平成19年8月4日～8月8日
 - 2. 派遣者： 春日文子（第二部会員）
 - 3. 派遣成果・内容：

- ・ 8月6日にマレーシア、ペナンの マレーシア科学大学で開催された、ウブントゥ連合 第2回ウブントゥ RCE 審査委員会に審査委員会の委員である黒川前会長の代理として、また 8月7日に同大学で開催された、第2回 RCE 国際会議にアジア学術会議の代表として、国際委員会アジア学術会議分科会ウブントゥ連合担当である上記会員を派遣した。
- ・ウブントゥ連合は、2002年ヨハネスブルグサミットの際にウブントゥ宣言に署名した、国連大学、UNESCO、ICSU、IAU など11の国際機関により構成され、アジア学術会議(SCA)もその署名機関の一つである。持続可能な社会のためにグローバルな規模で科学・技術教育の強化を促進し、教育機関と研究機関との連携を図ることが宣言の骨子であり、連合の中核的活動の一つとして、地域の拠点作り(Regional Centres of Expertise: RCE)を世界的なネットワークの下で支援している。2007年5月現在、世界中で35の RCE が活動中である。
- ・ウブントゥ RCE 審査委員会は、新規 R C E 申請課題をレビューし、認定の判断あるいは継続審査にあたり助言を行なう役割を担い、2006年4月に設立が決定された。ウブントゥ連合のうち8機関の代表者(当時)9名が委員として指名されている。
- ・今回のウブントゥ RCE 審査委員会には代理を含む5名の委員の外、事務局である国連大学高等研究所、計15名が出席した。国連大学ヒンケル学長を議長として、第1回ウブントゥ RCE 審査委員会後の状況報告、今後の RCE 活動の支援に関する討議、16の新規申請課題の審査を行った。審査の結果、大多数の課題を認定するとともに、具体的な助言をした。会議では、春日会員も適宜発言した。
- ・RCE 国際会議には28カ国から約120名の参加があり、国連大学ヒンケル学長らの特別講演に引き続き、活動している RCE の経験発表と質疑応答、今後の RCE 活動のネットワークについての討議などが行われた。春日会員は RCE としての保健活動について、特に地域の保健所、大学医学部、自治体の保健衛生部局との連携について質問した。

国際委員会「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007」分科会

**「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2007
国際開発協力」**

「 - International Cooperation for Development
International Conference on Science and Technology for Sustainability 2007」
結果概要

1. 日程 9月7日(金)～8日(土)
2. 場所 日本学術会議 講堂
3. 主催 日本学術会議(SCJ)
4. 参加者人数 2日間でのべ約250人
(うち招聘者18人(海外8人(6カ国)))
5. 概要

日本学術会議が4年前から毎年主催している「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議」が、今年は「国際開発協力」をテーマに9月7日～8日の2日間にわたって日本学術会議講堂で開催され、のべ約250人(17カ国)が参加しました。

本会議は、ケンブリッジ大学の Partha Dasgupta 教授及び国際開発高等教育機構(FASID)顧問の速水佑次郎教授の基調講演に加えて、3つの課題ごとのセッション(開発戦略と人間の安全保障、国際開発のための科学技術、能力構築とガバナンス)において活発な議論が行われ、会議は盛況のうちに終了しました。

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) **史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会**(第4回)(7月26日)

木村委員、篠原委員による報告 日本歴史学協会と共催の歴史教育シンポジウムについて 4月の総会の報告 - 対外報告書の作成について その他

- (2) **社会学委員会 社会理論分科会**(第3回)(7月27日)

グローバル化が引き起こす社会問題及びその社会理論へのインパクトに関する問題提起 シンポジウム開催など今後の活動について その他

- (3) **社会学委員会 ジェンダー学分科会** (第4回)(7月27日)
 * 歴史学とジェンダーに関する分科会と合同会議あり
 【合同会議】 両分科会主催による公開講演会の企画について 両分科会連携の「これから」について
 【単独会議】 今年度の活動 その他
- (4) **史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会** (第3回)(7月27日)
 * ジェンダー学分科会と合同会議あり
 【合同会議】 両分科会主催による公開講演会の企画について 両分科会連携の「これから」について
 【単独会議】 坂元委員の報告について その他
- (5) **社会学委員会 社会調査分科会** (第2回)(7月30日)
 住民基本台帳法問題点の検討 その他
- (6) **心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会** (第1回)(7月30日)
 役員選出 懸案の「医療心理師」資格化へ向けての方策
 特任連携会員の依頼について その他
- (7) **経済学委員会 政府統計・社会統計情報基盤整備分科会** (第3回)(8月1日)
 意見の取りまとめと今後の予定 その他
- (8) **心理学・教育学委員会 法と心理学分科会** (第1回)(8月3日)
 役員選出 今後の活動方針について その他
- (9) **法学委員会 法史学・歴史法社会学分科会** (第4回)(8月3日)
 全国の法学部および法科大学院カリキュラムにおける法史学の講義の状況の調査について いくつかの法学部学生に対する歴史に関する知識、および、司法研修所修習生に対する法史学的素養のテストについて その他
- (10) **社会学委員会** (第8回)(8月13日)
 社会学系コンソーシアムを連合体として「日本学術会議協力学術研究団体」へ登録する件について 日本学術会議の国際学術団体(ISA)への加入について 『学術の動向』における特集「社会学の今日から明日へ」企画について 「社会政策分科会」の運営について その他
- (11) **法学委員会 「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会** (第5回)(8月14日)
 不平等・格差社会とセーフティ・ネットについて シンポジウムについて その他
- (12) **社会学委員会 社会福祉学分科会** (第6回)(8月16日)
 報告書素案の検討 その他
- (13) **経営学委員会 経営リテラシー分科会** (第3回)(8月24日)
 「高校における経営教育の現状と改善方向」について
 報告者：岡田 理恵子(東京都立第一商業高等学校教諭・特任連携会員)
 新井 明(東京都立西高等学校教諭・特任連携会員) その他

- (14) **法学委員会 立法学分科会** (第4回)(9月1日)
シンポジウムの準備 シンポジウムの成果の発表のあり方(報告と討論のとりまとめと公表の方法)の問題 今後の分科会の進め方報告 次回以降の予定
- (15) **心理学・教育学委員会 心と身体から教育を考える分科会**(第2回)
(9月4日)
分科会の活動指針について 報告書の作成およびシンポジウム開催について その他
- (16) **社会学委員会 メディア・文化研究分科会** (第2回)(9月6日)
メディア・文化研究分科会 平成19年度後期の活動について その他
- (17) **法学委員会 「グローバル化と法」分科会** (第5回)(9月10日)
シンポジウムについて その他
- (18) **法学委員会 法史学・歴史法社会学分科会** (第5回)(9月11日)
全国の法学部および法科大学院カリキュラムにおける法史学の講義の状況の調査について いくつかの法学部学生に対する歴史に関する知識、および、司法研修所修習生に対する法史学的素養のテストについて その他
- (19) **心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会** (第2回)
(9月17日)
心の先端研究拠点間の連携と、情報ネットワークづくり その他

第二部担当

- (1) **臨床医学委員会 医療制度分科会** (第4回)(7月27日)
医療制度分科会対外報告の公表について(報告・事後承認) シンポジウムについて(報告) 本分科会への参加希望者について 課題別委員会設置の提案について 今後の活動について その他
- (2) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 進化・系統学分科会** (第1回)
(8月1日)
分科会役員の選出について 今後の分科会の運営について その他
- (3) **歯学委員会 歯学教育分科会** (第4回)(8月2日)
歯学教育分科会の課題と活動について その他
- (4) **臨床医学委員会 腎・泌尿・生殖分科会** (第5回)(8月6日)
「臨床医学会の社会的責任と裁量」- 今後の方向性について - 具体的方策についての検討 その他
- (5) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 自然人類学分科会** (第4回)
(8月7日)
分科会主催シンポジウム案の検討について その他

(6) **健康・生活科学委員会 看護学分科会** (第6回)(8月7日)

班毎の経過報告と討議

- 1) 高齢者の健康問題と看護の役割拡大(太田委員、秋山委員)
- 2) 周産期の健康問題における看護(助産)の役割拡大(横尾委員、山本委員)
- 3) 小児の健康問題と看護の役割拡大(片田委員、實成委員)

緊急課題の重点的討議

- 1) 各班の課題と現在の論点の整理
- 2) 看護学からみて状況の改善のために現時点で提言できることはあるか。

その他

(7) **薬学委員会 医療系薬学分科会** (第2回)(8月9日)

学術会議及び医療系薬学分科会の関連分科会の動向について 医療系薬学における学術のあり方について 分科会の今後の方針について 他分科会、他領域との連携について その他

(8) **歯学委員会 歯学教育分科会** (第5回)(8月17日)

歯学教育分科会主催講演会について その他

(9) **生産農学委員会 林学分科会** (第3回)(8月17日)

林学分科会の今後の活動について(シンポジウムの開催及びその他の活動) その他

(10) **臨床医学委員会 終末期医療分科会** (第5回)(8月20日)

川崎共同病院事件控訴審について(町野委員) 平成8年日本学術会議死と医療特別委員会報告書を元に終末期医療のあり方について(樋口委員) 用語の定義(続き) その他

(11) **臨床医学委員会 感覚器分科会** (第6回)(8月21日)

市民公開講座「見るよろこび、聞くよろこび - A V Dの克服に向けて - 」について その他

(12) **農学基礎委員会 水問題分科会** (第6回)(8月22日)

大垣 眞一郎会員との意見交換 秋のシンポジウム計画について 報告書(提言)の内容検討 その他

(13) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生物物理学分科会**
(第2回)(8月24日)

* I U P A B分科会と合同会議

報告事項

- 1) 学術会議報告 2) 国内活動状況報告 3) 国際活動状況報告
I U P A B (国際純粋・応用生物物理学連合) 国際会議
A B A (アジア生物物理学連合) シンポジウム
- 4) その他

審議事項

- 1) 生物物理学分科会の身分問題について
- 2) I U P A B 総会への日本代表選出について
- 3) A B A 支援問題について 4) その他

- (14) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 IUPAB 分科会** (第2回)
(8月24日)

*** 生物物理学分科会と合同会議**

報告事項

- 1) 学術会議報告 2) 国内活動状況報告 3) 国際活動状況報告
IUPAB (国際純粋・応用生物物理学連合) 国際会議
AB A (アジア生物物理学連合) シンポジウム
4) その他

審議事項

- 1) 生物物理学分科会の身分問題について
2) IUPAB 総会への日本代表選出について
3) AB A 支援問題について 4) その他

- (15) **農学基礎委員会 農業経済学分科会** (第6回)(8月28日)

東アジア経済連携の検討プランについて その他

- (16) **生産農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会**

*** 食の安全分科会と合同開催** (第5回)(8月29日)

合同シンポジウムの開催について 医薬品、食品のリスクアナリシス、
レギュラトリーサイエンスに関する意見交換 その他

- (17) **農学基礎委員会 食の安全分科会** (第5回)(8月29日)

*** トキシコロジー分科会と合同開催**

合同シンポジウムの開催について 医薬品、食品のリスクアナリシス、
レギュラトリーサイエンスに関する意見交換について その他

- (18) **臨床医学委員会 医療制度分科会** (第5回)(8月30日)

公開シンポジウム「医療を崩壊させないために：医療システムのゆくえ」に
ついて その他

- (19) **歯学委員会 基礎系歯学分科会** (第4回)(8月30日)

歯科基礎医学会2007及び2008における学術会議シンポジウムの開催につい
て 社会への広報について その他

- (20) **農学基礎委員会 農業生産環境工学分科会** (第7回)(8月31日)

「人工降雨」の対外報告(最終確認)について 農業教育関係の検討に
ついて 生物環境関係の検討について その他

- (21) **生産農学委員会 獣医学分科会** (第4回)(9月2日)

シンポジウムの打ち合わせについて 教育改善について その他

- (22) **健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会**

(第11回)(9月3日)

タバコ栽培農家についての意見交換 提言について その他

- (23) **生産農学委員会 応用昆虫学分科会** (第5回)(9月3日)

関連学協会との合同シンポジウム開催の具体化について その他

- (24) 健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会 (第4回)(9月3日)
シンポジウム開催について その他
- (25) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 細胞生物学分科会
* 形態・細胞生物医科学分科会と合同会議 (第4回)(9月8日)
今後の活動方針について 対外報告等の作成について その他
- (26) 基礎医学委員会 形態・細胞生物医科学分科会 (第4回)(9月8日)
* 細胞生物学分科会と合同会議
今後の活動方針について 対外報告等の作成について その他
- (27) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 基礎・臨床医学研究グランドデザイン検討分科会 (第1回)(9月10日)
委員長、副委員長、幹事の選任について 基礎医学研究と臨床医学研究のグランドデザインの検討方針について その他
- (28) 臨床医学委員会 終末期医療分科会 (第6回)(9月11日)
対外報告について その他
- (29) 歯学委員会 (第10回)(9月11日)
各分科会からの報告等について その他
- (30) 健康・生活科学委員会 生活科学分科会 (第8回)(9月12日)
生活科学分科会の今後の活動計画について 生活科学系コンソーシアムについて その他

第三部担当

- (1) 材料工学委員会 (第3回) 材料工学委員会 材料工学将来展開分科会 (第1回) 合同会議 (7月27日)
材料工学将来展開分科会の役員の選出について 若手・人材育成について
学協会と材料工学委員会との連携体制について その他
- (2) 機械工学委員会 製品設計の科学分科会 (第2回)(7月31日)
活動方法について その他
- (3) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会 (第2回)(8月2日)
「イノベーション25」について(柘植委員) ワーキンググループについての討議 その他
- (4) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・化学委員会・総合工学委員会合同 基礎科学の大型計画のあり方と推進方策検討分科会 (第6回)(8月2日)
対外報告とその後の状況、フォローアップについて 中・長期的課題と今後の検討方針について その他
- (5) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第6回)(8月3日)
素粒子・原子核分科会からの提言に向けての議論 その他

- (6) **総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会**(第2回)(8月7日)
「エネルギーと科学技術のテーマ：イノベーション25との関係」(鈴置委員)
「環境とエネルギー - シミュレーション科学からの試み - 」(高橋委員)
「新エネルギーの科学的評価」(本島委員、伊藤委員) その他
- (7) **数理科学委員会 数学教育分科会**(第4回)(8月8日)
ICME11とその際に関われるICMIの総会について 数学教育東
アジア地域会議(EARCOME)の日本での開催について その他
- (8) **化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同 化学工学分科会**
(第2回)(8月21日)
今までの経過 分科会運営の基本方針及び主題 話題提供:知の統合に向けて化学工学の視点から」(架谷委員) その他
- (9) **土木工学・建築学委員会 社会基盤ストックの持続性向上のための技術と政策分科会**(第3回)(8月23日)
話題提供 分科会の進め方について その他
- (10) **土木工学・建築学委員会**(第8回)(8月23日)
日本学術会議の近年の動向 土木工学・建築学委員会の運営と組織構成
分科会、小委員会報告
1) 学際連携分科会
2) 国土と環境分科会 / 自然共生型流域圏の構築小委員会
/ 都市・地域環境の再生小委員会
3) 建設と社会分科会 / 社会的共通資産研究小委員会
/ 民生とエネルギー小委員会
4) 社会基盤ストックの持続性向上のための技術と政策分科会
5) WFE O分科会、IUTAM分科会
課題別委員会報告
1) 地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会
2) 子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会
質疑 その他
- (11) **地球惑星科学委員会**(第16回)(8月24日)
第三部夏季部会報告 各分科会活動報告 その他
- (12) **総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会**(第3回)(8月27日)
知の統合としての計算科学・シミュレーション(萩原一郎)
「イノベーション25と知の統合WG」の報告(柘植綾夫)
「科研費分科細目と知の統合WG」報告(原辰次) 討論 その他
- (13) **環境学委員会 自然環境保全再生分科会**(第7回)(8月29日)
ヒアリング 第三次生物多様性国家戦略案検討について(環境省自然環境局
自然環境計画課長 渡邊綱雄) 対外報告の分科会最終案の決定と今後の進
め方 その他

- (14) **総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会**
 (第3回)(8月31日)
 ワーキンググループの設置と組織化 ワーキンググループ活動計画の検討 その他
- (15) **情報学委員会 E - サイエンス分科会** (第2回)(8月31日)
 話題提供「地方中堅どころの私学大学における学術情報システム」(三宅なほみ)「学術情報インフラに関する欧米の最近動向」(松岡 聡) 今後の分科会活動等に関する協議
- (16) **総合工学委員会・電気・電子工学委員会合同 I F A C分科会**
 (第5回)(9月7日)
 理事会報告 I F A C 役員推薦の件 N M O 代表の交代 2017年世界大会誘致の件 その他
- (17) **土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会** (第8回)(9月10日)
 話題提供 学術の動向における特集記事について その他
- (18) **情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会** (第1回)(9月13日)
 委員長等の選出について 今後の活動方針について その他
- (19) **情報学委員会 ウェブ・メディア社会基盤分科会** (第2回)(9月13日)
 今後の活動方針について その他
- (20) **地球惑星科学委員会 I U G G分科会** (第1回)(9月14日)
 委員長・幹事の選出、オブザーバーの承認 I U G G 2007 総会について(日本のI U G G 国内委員会としての対応) I A C S (International Association of Cryospheric Sciences) の設立への対応 その他
- (21) **地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会** (第9回)(9月18日)
 分科会の活動について その他 ワーキンググループ別検討会
- (22) **環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会合同**
若手・人材育成問題検討分科会 (第3回)(9月19日)
 今後の審議について その他
- (23) **機械工学委員会 製品設計の科学分科会** (第3回)(9月20日)
 設計が果たす役割について 機械工学分野の設計の現在の問題点について 今後の機械工学分野の在り方について その他

5 課題別委員会の開催とその議題

- (1) **地球温暖化等、人間活動に起因する地球問題に関する検討委員会拡大役員会** (第1回)(8月15日)
 出席者自己紹介 本委員会設置理由説明 審議の進め方について 各委員へのアンケート内容の検討 委員会日程の検討 その他

(2) 研究評価の在り方検討委員会(第6回)(8月20日)

報告書(案)について その他

(3) 生殖補助医療の在り方検討委員会(第8回)(8月24日)

当事者からみた生殖補助医療についての現状と課題 その他

(4) 研究評価の在り方検討委員会(第7回)(9月7日)

報告書(案)について その他

6 総合科学技術会議報告

(1) 本会議

* 第69回(持ち回り)

9月13日

総合科学技術会議が実施する国家的に重要な研究開発の評価

「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」について

(2) 専門調査会

* 第67回 評価専門調査会

8月6日

国家的に重要な研究開発の評価

「最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用」について

大規模研究開発の事前評価のフォローアップについて

* 第45回 生命倫理専門調査会

8月21日

生命倫理に関する最近の知見

* 第68回 評価専門調査会

9月7日

平成19年度における大規模研究開発の事前評価について

評価システム改革の推進について

(3) 総合科学技術会議有識者議員会合

・ 8月 2日 * 会長出席

・ 8月 9日

・ 8月23日 * 会長出席

・ 8月30日 * 会長出席

・ 9月 6日

・ 9月11日 * 会長出席

・ 9月20日 * 会長出席

審 議 事 項

(対外報告)

提案 8 「現代的課題を切り拓く地理教育」 P. 1

提案 9 「魅力ある都市構築のための空間緑化—近未来のアーバン・クリーニング—」
P. 2

提案 10 「生物多様性国家戦略改定に向けた学術分野からの提案」 P. 3

(規則等の改正)

提案 11 日本学術会議会則の一部を改正する規則案 P. 4

提案 12 日本学術会議地区会議運営要綱の一部を改正する決定案 P. 7

(団体の指定)

提案 13 日本学術会議協力学術研究団体の指定 P. 11

(国際会議関係)

提案 14 平成 19 年度代表派遣 (平成 19 年 10 ~ 12 月分) P. 12

提案 15 平成 19 年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱案 P. 14

(シンポジウム等)

提案 16 第 151 回総会日程 (案) P. 16

提案 17 公開シンポジウム「食料とエネルギーに関わる水問題」 P. 18

提案 18 第 14 回界面シンポジウム「エネルギーの変換と貯蔵—世界の趨勢—化石燃料
の代替と地球温暖化防止のために」 P. 20

提案 19 国際共同ワークショップ「Designing Global Information Commons for
Innovation Frontier Sciences(グローバル情報コモンズのデザイン：フロンテ
ィア・サイエンスのイノベーションに向けて)」 P. 21

提案 20 「第 15 回かがわけん科学体験フェスティバル」 P. 22

提案 21 日本学術会議中国・四国地区会議公開学術講演会 P. 23

提案 22 情報学シンポジウム「情報処理で社会を守る」 P. 24

提案 23 シンポジウム「日本の将来を科学・技術の視点で考える」 P. 25

提案 24 「サイエンスアゴラ 2007 ~ みんなでつなごう未来のスイッチ ~ 」 P. 26

提案 25 シンポジウム「脳と高齢化社会」 P. 28

提案 26 日本学術会議中部地区会議公開学術講演会 P. 29

提案 27 シンポジウム「日本の環境教育への提言」 P. 30

提案 28 日本学術会議北海道地区会議公開学術講演会 P. 31

提案 29 シンポジウム「高度情報社会の脆弱性の解明と解決」 P. 32

提案 30 公開講演会「医療関連死を考える・解剖に基づく新たな死因究明制度」 P. 33

（後援）

提案 31 国内会議の後援

P.35

提案 32 国外会議の後援

P.37

8	
幹事会	4 2

提 案

対 外 報 告

「 現 代 的 課 題 を 切 り 拓 く 地 理 教 育 」

- 1．提案者 地域研究委員会委員長
- 2．議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3．提案理由 人文・経済地理と地域教育（地理教育を含む）分科会及び人類学分科会のこれまでの審議結果を別添（資料7）のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学会議会議則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

9	
幹事会	4 2

提 案

対 外 報 告

「魅力ある都市構築のための空間緑化 - 近未来のアーバン・グリーンング - 」

- 1 . 提案者 農学基礎委員会委員長
- 2 . 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 . 提案理由 農学基礎委員会農業と環境分科会における対外報告を別添(資料 8) のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したい
ため。

記

日本学会議会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

1 0	
幹事会	4 2

提 案

対 外 報 告

「生物多様性国家戦略改定に向けた学術分野からの提案」

- 1 . 提案者 環境学委員会委員長
- 2 . 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 . 提案理由 自然環境保全再生分科会における対外報告を別添(資料9)のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

1 1	
幹事会	4 2

提 案（総会）

日本学術会議会則の一部を改正する規則案

- 1 提 案 者 鈴木副会長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり総会に提案すること。
- 3 提案理由 意思の表出について種類の名称を変更する必要があるため。

○日本学術会議規則第 号

日本学術会議法（昭和二十三年法律第二百一十一号）第二十八条の規定に基づき、日本学術会議会則の一部を改正する規則を次のように定める。

平成十九年 月 日

日本学術会議会長 金澤 一郎

日本学術会議会則の一部を改正する規則案

日本学術会議会則（平成十七年日本学術会議規則第三号）の一部を次のように改正する。

第二条第三号中「対外報告」を「提言」に改める。

別表中「対外報告」を「提言」に改める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

日本学術会議会則の一部を改正する規則案新旧対照条文

。日本学術会議会則（昭和二十四年日本学術会議規則第一号）

（傍線の部分は改正部分）

改 正 案	現 行																														
（意思の表出） 第二条 学術会議は、日本学術会議法（以下「法」といづ。）第四条に定める諮問に対する答申及び法第五条に定める勧告のほか、法第三条第一号の職務として、次に掲げる意思の表出をすることとし、その表出主体及び定義は別表のとおりとする。 一 要望 二 声明 三 提言 四 回答 別表 <table><tr><th>種類</th><th>表出主体</th><th>定義</th></tr><tr><td>要望</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。</td></tr><tr><td>声明</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>提言</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。</td></tr><tr><td>回答</td><td>学術会議</td><td>関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。</td></tr></table>	種類	表出主体	定義	要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。	声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。	提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。	回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。	（意思の表出） 第二条 学術会議は、日本学術会議法（以下「法」といづ。）第四条に定める諮問に対する答申及び法第五条に定める勧告のほか、法第三条第一号の職務として、次に掲げる意思の表出をすることとし、その表出主体及び定義は別表のとおりとする。 一 要望 二 声明 三 対外報告 四 回答 別表 <table><tr><th>種類</th><th>表出主体</th><th>定義</th></tr><tr><td>要望</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。</td></tr><tr><td>声明</td><td>学術会議</td><td>法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。</td></tr><tr><td>対外報告</td><td>部、委員会又は分科会</td><td>法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。</td></tr><tr><td>回答</td><td>学術会議</td><td>関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。</td></tr></table>	種類	表出主体	定義	要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。	声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。	対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。	回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。
種類	表出主体	定義																													
要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。																													
声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。																													
提言	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。																													
回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。																													
種類	表出主体	定義																													
要望	学術会議	法第五条各号に掲げる事項に関し、政府及び関係機関等の実現を望む意思表示をすること。																													
声明	学術会議	法第五条各号に掲げる事項のうち、学術会議の目的を遂行するために特に必要と考えられる事項について、意見等を発表すること。																													
対外報告	部、委員会又は分科会	法第五条各号に掲げる事項に関し、審議の結果を発表すること（意見等の発表を含む。）。																													
回答	学術会議	関係機関からの審議依頼（法第四条の諮問を除く。）事項に対し、回答すること。																													

1 2	
幹事会	4 2

提 案

日本学術会議地区会議運営要綱の一部を改正する決定案について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記について、別紙案のとおり決定すること
- 3 提案理由 地区会議の活動を活性化するために、地区会議運営要綱の一部を以下の観点から改正するものである。
 - ・地区会議の「構成員」の定義を変更し、「構成員」は当該地区に勤務地（勤務地がない場合は居住地）を有する会員及び連携会員全員とする。
 - ・地区会議の運営と活動に責任を持つ組織として「地区会議運営協議会」を置く。
 - ・地区会議運営協議会は、会員及び連携会員 1 2 名以内で構成する。これによって、会員と連携会員が協力して地区会議の運営と活動を推進できるようにする。
 - ・地区会議の自主性及び意欲を尊重し、各地区独自に地区会議運営協議会委員等を選出できるようにする。

日本学術会議地区会議運営要綱の改正案

日本学術会議地区会議運営要綱（平成１７年日本学術会議第１回幹事会決定）の一部を次のように改正する。
次の表により、改正前欄に掲げる規定をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
（各地区の構成員） 第５ 前項「第４」で挙げた各地区の構成員は、原則として当該地区に勤務地（勤務地がない場合は居住地）を有する会員及び連携会員とする。ただし、<u>会員又は連携会員は、申し出により、科学者委員会及び幹事会の議を経て、所属地区を変更することができる。</u>	（構成） 第５ 地区会議は、原則として各部が当該地区に居住する<u>会員又は勤務地を有する会員の中から選出した各３名をもって構成する。ただし、地区会議の要請があった場合には、各部は幹事会に諮り、構成員を追加することができる。</u> ２ <u>当該地区に居住する会員又は勤務地を有する特定の部の会員が２名以下の場合は、当該部は、連携会員又は他地域の会員を構成員として加えることができる。</u> ３ <u>地区会議は、構成員である会員の中から代表幹事１名を選出する。代表幹事は、地区会議を主宰する。</u> ４ <u>地区会議の活動に関する事務を処理するため、日本学術会議事務局及び日本学術会議幹事会が決定する関係大学事務局に地方連絡委員を置く。地方連絡委員は、地区会議を構成する会員等との連絡調整を密にするものとする。</u>

改正後	改正前
(地区会議運営協議会及び事務局) 第 6 各地区に地区会議運営協議会を置き、当該地区の運営及び活動に関する事項を審議・決定する。 2 各地区に所属する会員は、互選により 9 名以内の地区会議運営協議会委員を選出する。その際、委員が特定の部に偏らないように配慮する。ただし、地区会議運営協議会から科学者委員会に要請があった場合は、科学者委員会及び幹事会の議を経て、当該地区に所属する会員又は連携会員の中から地区会議運営協議会委員を追加することができる。なお、委員の追加を認める場合も地区会議運営協議会の委員総数は 12 名を超えないものとする。 3 地区会議運営協議会は、互選により会員である委員の中から代表幹事 1 名を選出する。代表幹事は各地区会議運営協議会を主宰する。 4 各地区における地区会議運営協議会委員及び代表幹事の選出手続きは、構成員の規模等を考慮して、各地区で定め、科学者委員会の了承を得るものとする。 5 地区会議の活動に関する事務を処理するため、幹事会が決定する関係大学事務局に地方連絡委員を置く。それに対応して日本学術会議事務局内にも地方連絡委員を置く。地方連絡委員は、各地区の構成員等との連絡調整を密にするものとする。	(新設)

改 正 後	改 正 前
(事業計画) 第 <u>7</u> 1～2(略)	(事業計画) 第 <u>6</u> 1～2(略)
(地区会議代表幹事会) 第 <u>8</u> 1～4(略)	(地区会議代表幹事会) 第 <u>7</u> 1～4(略)
(留意事項) 第 <u>9</u> 1～4(略)	(留意事項) 第 <u>8</u> 1～4(略)
(庶務) 第 <u>10</u> (略)	(庶務) 第 <u>9</u> (略)
(庶務) 第 <u>11</u> (略)	(庶務) 第 <u>10</u> (略)

附 則

この決定は、平成19年10月15日から施行する。

1 3	
幹事会	4 2

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

- 指定することを適当と認める
 - 経営関連学会協議会
 - 日本学校健康相談学会
 - 放電学会
 - バレーボール学会
 - 日本質的心理学会
 - 日本ファイナンス学会
 - 日本観光ホスピタリティ教育学会
 - 人間・植物関係学会
 - 日本体操学会
 - 日本ヤスパース協会
 - 日本ジェネリック医薬品学会
 - 中国経営管理学会
 - 電子スピサイエンス学会
 - 日本学習社会学会
 - 日本子ども健康科学会（子どもの心・体と環境を考える会）
 - 日本環境管理学会
 - 日英教育学会
 - 北海道畜産学会
 - 古代アメリカ学会
 - 日本リハビリテーション連携科学学会
 - 地域研究学会連絡協議会
 - 財団法人 林業経済研究所
 - 多文化関係学会

1 4	
幹事会	4 2

提 案

平成 1 9 年度代表派遣（平成 1 9 年 10 ～ 12 月分）

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第 19 条の規定に基づくものである。

< 参考 > 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣者の選考)

第 1 9 条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第 7 に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の 1 か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

1 4	
幹事会	4 2

提 案

平成 1 9 年度代表派遣（平成 1 9 年 10 ～ 12 月分）

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第 19 条の規定に基づくものである。

< 参考 > 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

第 1 9 条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第 7 に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の 1 か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

1 5	
幹事会	4 2

提 案

平成 1 9 年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱案

- 1 . 提 案 者 国際委員長
- 2 . 議 案 標記について、別紙案のとおり決定すること。
- 3 . 提案理由 日本学術会議会則第 3 条第 1 項第 5 号の国際活動として平成
1 9 年度日本・カナダ女性研究者交流事業を行うこととし、実
施要綱を別紙案のとおり策定いたしたい。

《参考》日本学術会議会則（抜粋）

（国際活動）

第三条 法第三条第二号の職務として、法第六条の二に定める国際団体への加入
のほか、次に掲げる国際活動を行うことができる。

- 一 学術に関する国際会議等への代表の派遣
- 二 学術に関する国際会議の主催及び後援
- 三 二国間学術交流
- 四 アジア学術会議に関すること
- 五 その他会長が必要と認めるもの

平成19年度日本・カナダ女性研究者交流事業実施要綱（案）

平成19年 月 日
日本学術会議第42回幹事会決定

1. 目的

本事業は、日本・カナダ両国の優れた若手の女性研究者の相互訪問を通じて、幅広く科学技術・学術分野における女性の活躍を促進することを目的とする。

2. 事業の内容

- (1) 当該女性研究者は相手国の大学や研究機関等を訪問し、専門分野における最近の研究動向等について情報交換する。
- (2) 初等中等教育段階の学校（小学校、中学校、高校）を訪問し、自らの研究活動や研究者としての経験について紹介しつつ、生徒との交流を行う。
- (3) 帰国後報告会を設け、両国の研究環境や教育環境の違い、双方の優れた点や検討すべき点等について、直に触れることにより得た知見を報告する。

3. 実施計画

19年度は、カナダ側からの派遣の受け入れ及び日本からカナダへの女性研究者の派遣を行う。滞在期間はいずれも1週間から10日間程度とする。

カナダ側から派遣受け入れ（1名） 19年12月～20年3月頃

日本からカナダへの派遣（2名） 19年12月～20年3月頃

人数及び時期はいずれも予定

4. 実施体制

(1) 実施体制

日本とカナダが共同で実施。

日本側：日本学術会議、文部科学省

カナダ側：在日カナダ大使館、カナダ王立協会、カナダ保健研究機構、カナダ自然科学・工学研究審議会

(2) 事務分担

カナダ側からの派遣者	： 旅費	カナダ側が負担
	滞在費	文部科学省が負担
	受入事務	日本学術会議
日本からカナダへの派遣	： 旅費	文部科学省が負担
	滞在費	カナダ側が負担
	受入事務	カナダ王立協会

5. 派遣者の選定

ホームページ上で公募を行う。国際委員会日本・カナダ女性研究者交流分科会による審査の上、2名の派遣者を選定。（募集要項等の詳細については、関係機関と協議の上、別途定める）

6. その他

日本学術会議における本事業の庶務は、日本学術会議事務局各課・参事官の協力を得て、参事官（国際業務担当）において処理する。

1 6	
幹事会	4 2

提 案

第 1 5 1 回総会日程（案）

1 提 案 者 会 長

2 議 案 標記について、別紙のとおりとすること。

第 1 5 1 回総会日程案

第 1 日程表

10:00 ~		12:00 ~ 13:30 ~		16:30 ~
10 月 10 日 (水)	総 会 ・ 活動状況報告（会長） ・ 提案事項説明 会則の改正等 ・ 特別講演（野依良治理化学研究 所理事長） ・ その他	昼休み	部 会	幹 事 会
10:00 ~		12:00 ~ 13:30 ~		16:30 ~
10 月 11 日 (木)	部 会	昼休み	総 会 ・ 提案事項採決 ・ 各部報告 ・ 自由討議他	幹 事 会
10:00 ~		12:00 ~ 13:30 ~		15:30 ~
10 月 12 日 (金)	機能別委員会等	昼休み	機能別委員会等	幹 事 会

（総会中の日程は、審議の状況により変更される場合があります。）

第 2 会場

総 会……講 堂
部 会……各会議室
幹事会……大会議室

17	
幹事会	42

提 案

公開シンポジウム「食料とエネルギーに関わる水問題」の開催

- 1 提 案 者 農学基礎委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議農学基礎委員会水問題分科会、
東京大学大学院農学生命科学研究科
2. 後援（予定） 前田建設工業株式会社、株式会社熊谷組
3. 日 時 平成19年10月29日（月）13：30～17：30
4. 場 所 東京大学弥生講堂
5. 分科会の開催 同会場において分科会を開催予定
6. 次 第

開催趣旨

私達が住むモンスーン・アジアは、人口増大と経済発展が目覚ましい地域である。それらは輝かしい未来への無限の可能性を持つと同時に、食料とエネルギーという、これからのアジアにとって不可欠な要素の競合、そしてそれに伴う水問題を招く可能性も秘めている。また人口圧と経済発展は、全地球が直面している地球温暖化を進行させる原因のひとつともなりえる。食料やバイオ燃料となる農産物を生産する農業は、これらの諸問題に大きく貢献する可能性を秘めている。

「農業」というアジア・モンスーン共通の視点から、私達が今なすべきことは何かを具体的に考え提言していくことが、本シンポジウムの開催趣旨である。

開会の辞：宮崎 毅（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、
日本学術会議連携会員、日本学術会議水問題分科会委員長）

挨拶：未 定（前田建設工業株式会社）

挨拶：大田 弘（株式会社熊谷組社長）

挨拶：生源寺眞一（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、研究科長
日本学術会議連携会員、日本学術会議水問題分科会委員）

講 演（13：50～15：10）

1) 太田 信介（独立行政法人水資源機構副理事長）

2) 中嶋 康博（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

休憩

パネルディスカッション（15：30～17：30）

岩元 睦夫（社団法人農林水産先端技術産業振興センター理事長、
日本学術会議連携会員、日本学術会議水問題分科会委員）
横山 伸也（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員）
小林 久（茨城大学農学部准教授）
倉阪 秀史（千葉大学法経学部准教授）
太田 信介（独立行政法人水資源機構副理事長）
中嶋 康博（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
宮崎 毅（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、
日本学術会議連携会員、日本学術会議水問題分科会委員長）

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

シンポジウム事務局 担当：杉浦

E-mail: food-energy@water.name Fax: 5841-8170

1 8	
幹事会	4 2

提 案

第 1 4 回界面シンポジウム「エネルギーの変換と貯蔵 - 世界の趨勢 - 化石燃料の代替と地球温暖化防止のために」の開催

- 1 . 提案者 化学委員会委員長、総合工学委員会委員長、材料工学委員会委員長
- 2 . 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議化学委員会、総合工学委員会、材料工学委員会
- 2 共 催 界面科学技術機構、日本工学アカデミー、未踏科学技術協会
- 3 日 時 平成 1 9 年 1 1 月 2 日 (金)
- 4 場 所 日本学術会議講堂

5 議事次第

開催趣旨：

新エネルギー諸問題を解決するためには、学際的で、基礎から応用にいたる包括的な取り組みと同時に産官学の密接な連携が不可欠であることは論をまたない。

サステナブルな地球環境の保全のために、現時点で世界における取り組みの実情を俯瞰し、将来のエネルギー政策の指針を策定することを目的とし、エコ・イノベーションが早期に実現されるよう本シンポジウムは企画されたものである。

プログラム

開会 10:45 山本良一 (東京大学生産技術研究所教授、実行委員長)

講演

- (1) 11:00 「特別講話 - 地球温暖化とエコ・イノベーション」 山本良一 (東京大学生産技術研究所教授)
- (2) 11:20 「遺伝子組換えによる光合成増感」 奥 忠武 (日本大学生物資源学部教授)
- (3) 13:00 「New Biofuel Resource, Algae」 Al Darzins (National Bioenergy Center, USA)
- (4) 13:40 「わが国のバイオ燃料政策」 末松広行 (農林水産省環境政策課長)
- (5) 14:20 「太陽光による水分解-水素生成の触媒」 工藤昭彦 (東京理科大学理学部教授)
- (6) 15:15 「色素増感による太陽光発電と蓄電」 宮坂 力 (桐蔭横浜大学工学研究科教授)
- (7) 15:55 「蓄電デバイス-キャパシタの高容量化」 最上明矩 (アドバンスド・キャパシタ・テック 技術担当)
- (8) 16:35 「Overview of Energy Conversion and Storage in EU (ドイツ大使館に依頼中)

閉会 17:15 村瀬平八 (実行副委員長)

19	
幹事会	42

提 案

国際共同ワークショップ「Japan-U.S. Cooperative Science Program : Designing Global Information Commons for Innovation in Frontier Sciences (グローバル情報コモンズのデザイン：フロンティア・サイエンスのイノベーションへ向けて)」

1. 提案者 情報学委員会委員長
2. 議 案 標記ワークショップを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議情報学委員会国際サイエンスデータ分科会
米国国立アカデミーズ CODATA 委員会
2. 協 賛 日本工学アカデミー他
3. 日 時 平成19年11月8日(木)～10日(土)
4. 場 所 東京大学柏キャンパス(千葉県柏市柏の葉5-1-5)

5. 議事次第

趣旨：社会と連動して、日々、ダイナミックに変容・進化する科学技術情報のコンテンツとその共有、活用、ビジネス展開のためのコンテキスト、制度、知財、価値、教育、人材養成、国際連携などに注意を払いながら、具体的なイノベーション事例を基に科学技術全体の知的生産性と価値を高め、新たな市場の形成や社会的な便益を向上させるための方策、枠組みについて議論を深める。

最初の2日間は非公開のワークショップとし、日米の主要な関係者による標記テーマについての具体的な事例を基にした意見交換と今後のコラボレーションに関する検討、最終日は当該テーマについての公開講演会を実施する。

○プログラム

- (1) 統合型ブランドコミュニケーションのための情報コモンズ
 - (2) 安全、健康のための情報コモンズ
 - (3) 総合あるいは先端科学技術のための情報コ
 - (4) 共有地の環境デザインのための情報コモンズ
 - (5) データの信頼性と情報セキュリティ
- 上記の(1)～(4)の基盤としてのデータおよびサービスの質の向上

20	
幹事会	42

提 案

「第15回かがわけん科学体験フェスティバル」の開催

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 科学と社会委員会科学力増進分科会、科学体験フェスティバル実行委員会、香川大学、(財)四国産業・技術振興センター、(財)日本科学技術振興財団・科学技術館（予定）
- 2 共 催 香川県、(財)かがわ産業支援財団（予定）
- 3 後 援 香川県教育委員会、高松市教育委員会、香川県小学校教育研究会理科部会、香川県中学校教育研究会理科部会及び技術・家庭科部会、香川県高等学校教育研究会理化部会、生地部会及び工業部会、四国経済連合会（予定）ほか
- 4 協 賛 四国電力株式会社高松支店（予定）
- 5 日 時 平成19年11月10日(土)～11日(日)10:00～16:00
- 6 会 場 香川大学教育学部体育館・武道場
(高松市幸町1番地1号)

7 次第等

開催趣旨

主として香川県内の児童生徒の、科学や技術に対する関心を高めるとともに、様々な自然体験を通して、人間としての成長を図ることを目的に、平成5年度から、毎年、開催している科学体験行事である。

講演会

日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会委員 佐藤 勝彦

主な実験内容（予定）

- ・いつまでも！とべ！シャボン玉
- ・つくってあそぼう！ゴムロケット
- ・視覚の不思議
- ・フェルト もこもこボール
- ・怪獣ゴムに挑戦！
- ・折り紙建築
- ・鉱物のブローチづくり ～ミネラルブローチに挑戦！～
- ・スライムの不思議な遊び 他

2 1	
幹事会	4 2

提 案

日本学術会議中国・四国地区会議 公開学術講演会の開催

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議中国・四国地区会議
- 2 共 催 国立大学法人香川大学
- 3 日 時 平成 19 年 11 月 20 日（火）13:30～17:00
- 4 会 場 サポートホール高松 第1小ホール
- 5 次 第
 - ・開会挨拶
 - 13:30～13:40 武田 和義（日本学術会議中国・四国地区会議代表幹事、岡山大学資源生物科学研究所長）
 - 13:40～13:45 一井眞比古（日本学術会議連携会員、香川大学長）
 - ・第Ⅰ部 基調講演
 - 特別講演
 - 13:50～14:20 「 未定 」
 - 松田 治（瀬戸内海研究会議会長、広島大学名誉教授）
 - 研究報告
 - 14:20～14:50 「 未定 」
 - 多田 邦尚（香川大学農学部 教授）
 - 14:50～15:20 「 未定 」
 - 末永 慶寛（香川大学工学部 准教授）
 - - - 20 分間休憩 - - -
 - ・第 部 パネルディスカッション
 - 15:40～16:55 「浅海の生産環境と防災」
 - パネリスト : 氏 香川県
 - 山本 啓一（香川県魚市場(株) 代表取締役社長）
 - 松田 治（瀬戸内海研究会議会長、広島大学名誉教授）
 - or （日本学術会議）
 - 白木 渡（香川大学工学部 教授）
 - コーディネーター：多田 邦尚（香川大学農学部 教授）
 - ・閉会挨拶
 - 16:55～17:00 前田 肇（香川大学理事（学術担当））
 - 司会：青木 早苗（香川大学研究企画センター 教授）

2 2	
幹事会	4 2

提 案

情報学シンポジウム「情報処理で社会を守る」

1. 提案者 情報学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議情報学委員会
2. 日 時 平成19年11月20日(火) 14:00 - 17:00
3. 場 所 日本学術会議講堂

4. 次 第

<企画趣旨>

近年の航空機、鉄道、通信の情報システム事故が与えた影響からも理解できるように情報システムはまさに社会インフラとして機能しています。そのような状況において、国民を中心とした暮らしの電子情報サービスシステム設計を最適に実現するには、どのようにあるべきかを、政府、地方自治体、金融などでの調達の意思決定者や責任者及び産業界の受託側の意志決定者や責任者もまじえ、明らかにします。

<プログラム>

開催挨拶 情報学委員会委員長 坂内正夫(国立情報学研究所)

講 演 「社会情報インフラの安全と信頼」

情報学委員会セキュリティ・ディペンダビリティ分科会委員

坂井修一(東京大学)

パネルディスカッション「業界が望むディペンダビリティ」

金融業界 東証

物流業界 佐川急便

航空業界 全日空

鉄道業界 JR 東

自動車業界 トヨタ情報システム

家電業界 ソニー 所真理男(連携会員)

2 3	
幹事会	4 2

提 案

シンポジウム「日本の将来を科学・技術の視点で考える」の開催

- 1．提案者 科学と社会委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会
慶應義塾大学 SFC 研究所、日本科学未来館
(慶應義塾大学 SFC Open Research Forum 2007 メインセッション)
- 2 日 時 平成 19 年 11 月 22 日 (木) 13:00 - 14:30
- 3 会 場 六本木アカデミーヒルズ 40 キャラント B (六本木ヒルズ 40F)
*日本科学未来館と高速回線によるインターネット中継を実施

4 次第等 開催趣旨

小泉内閣の中で改革における「骨太の方針」の設計をリードしてきた竹中平蔵氏、インターネットの社会への普及をリードしてきた村井純氏、科学・技術研究のおもしろさや意義を社会に伝える活動をリードしてきた毛利衛が、科学・技術という視点から日本の将来のあるべき姿を議論する。

パネリスト

竹中平蔵(慶應義塾大学 グローバルセキュリティ研究所所長・元総務大臣)
村井 純 (慶應義塾 常任理事・日本学術会議会員)
毛利 衛 (日本科学未来館館長・日本学術会議 科学力増進分科会委員長)

2 4	
幹事会	4 2

提 案

「サイエンスアゴラ 2007～みんなでつなごう未来のスイッチ～」の開催

- 1 提案者 毛利 衛、鈴木晶子、本田孔士、上野千鶴子、長谷川寿一、大野竜三、郷 道子、佐藤勝彦、平 朝彦
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議、（独）科学技術振興機構、国際研究交流大学村
- 2 後 援 文部科学省、全国中学校理科教育研究会、（独）国立科学博物館、自然科学研究機構 国立天文台、（独）理化学研究所、（独）産業技術総合研究所
- 3 協 力 日本科学未来館
- 3 日 時 平成19年11月23日（金）～25日（日）
- 4 会 場 国際研究交流大学村
（東京国際交流館 東京都江東区青海 2-79）
（日本科学未来館 東京都江東区青海 2-41）
（産業技術総合研究所臨海副都心センター 東京都江東区青海 2-41-6）

5 次 第

<開催趣旨>

サイエンスアゴラは、科学技術を社会にわかりやすく伝える共に、科学技術の問題を社会と共に考える場を作り、多様な方々が交流する場の創出を目的として、科学技術に関わる多様な層の人々が参加し、研究者・科学技術政策担当者から一般市民までの参加を得て特定の個別分野に留まらない科学技術の課題を話し合うためのイベントとする。

<プログラム等>

プログラムは、本部企画・共催企画・一般公募企画の3種のカテゴリーから構成される。

本部企画＝実行委員会と事務局が中心となって、企画・立案・実施するプログラム。

開会シンポジウム、総括シンポジウム、その他、2～3のシンポジウム

共催企画 = 共催者等と、共同で企画するプログラム。

日本学術会議関係シンポジウム

- ・ 科学と社会委員会科学力増進分科会
「新しい『サイエンス・メディア』をデザインする」
- ・ 科学と社会委員会科学力増進分科会
「mini セルフエスタ 2007 in 東京」
- ・ 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・心理学・教育学委員会合同行動生物学分科会
「人間理解のための行動生物学最前線」
- ・ 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同自然人類学分科会
「ロボットの人類学を考える」
- ・ 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・地球惑星科学委員会合同自然史・古生物分科会
「生命の息吹と地球の鼓動を聞く：今、フィールドサイエンスが面白い」

一般公募 = 機関、団体、研究室、個人、企業などから、広く企画公募を受けて実施するプログラム。対象は、一般向け（カテゴリーA）を主とし、科学技術関係の専門家向けのセッション（カテゴリーB）も設ける。

2 5	
幹事会	4 2

提 案

シンポジウム「脳と高齢化社会」の開催について

- 1 提案者 心理学・教育学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 心理学・教育学委員会脳と意識分科会、基礎医学委員会神経科学分科会、臨床医学委員会脳とこころ分科会
- 2 共 催 特定非営利活動法人 脳の世紀推進会議
- 3 日 時 平成19年11月26日(月) 10:00～17:00
- 4 会 場 日本学術会議講堂
- 5 次 第

司 会：宮下保司（基礎医学委員会神経科学分科会委員長、東京大学教授）

10:00 ご挨拶 金澤一郎（日本学術会議会長、皇室医務主管）

10:10 演題未定（脳と老化についてのイントロ） 演者交渉中

11:00 「パーキンソン病はどこまでわかったか？」 高橋良輔（京都大学教授）

11:50-13:00 休憩

司 会：苅阪直行（心理学・教育学委員会脳と意識分科会委員長、京都大学教授）

13:00 演題未定 山脇成人（広島大学教授）

13:50 「老年期のうつと認知症—認知機能の側面から」 三村将（昭和大学准教授）

14:40-15:00 休憩

司 会：樋口輝彦（臨床医学委員会脳とこころ分科会委員長、国立精神・神経センター総長）

15:00 「アルツハイマー病研究はここまできた」 岩坪威（東京大学教授）

15:50 「高齢者の脳とワーキングメモリ」

苅阪満里子（大阪大学教授）・苅阪直行（京都大学教授）

16:40 総合討論

17:00 閉会

2 6	
幹事会	4 2

提 案

日本学術会議中部地区会議 公開学術講演会の開催

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議中部地区会議
- 2 日 時 平成 19 年 11 月 30 日（金）13:00～16:00
- 3 会 場 静岡大学情報学部 2 号館 3 階会議室（浜松キャンパス）
静岡大学共通教育 A 棟 301 講義室（静岡キャンパス：遠隔授業システムにて参加）
- 4 次 第
 - （ 1 ）開会挨拶
興 直孝（静岡大学長）
 - （ 2 ）日本学術会議第 151 回総会報告
後藤俊夫 中部地区会議代表幹事
 - （ 3 ）科学者との懇談
 - （ 4 ）講演会の演題及び演者
 - ・講演「古代日本の超技術～半導体結晶技術との相関～」
志村 史夫（静岡理工科大学理工学部教授）
 - ・講演「病気にかからない植物は作れるか？」
露無 慎二（静岡大学副学長・大学院創造科学技術研究部教授）
 - （ 5 ）閉会挨拶
未 定

27	
幹事会	42

提 案

シンポジウム「日本の環境教育への提言」の開催

1. 提案者 環境学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会
2. 日 時 平成19年12月7日(金)13:00～18:00
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 議事次第

趣旨： 21世紀に入り、温暖化をはじめとする地球環境問題が深刻になり、環境教育の役割がますます重要になってきました。本シンポジウムはこうした状況を踏まえ、環境思想・環境教育分科会が目下検討中の我が国における環境教育のアクションプラン「政府への提言」を発表すると共に、学会、協会、NGO/NPOを中心に国内の各セクターが集合し、我が国における環境教育の今後の方向性を討議し、「政府への提言」の必要性・緊急性を広く社会に向けてアピールすることを目的とするものです。

プログラム：(予定)

- 挨拶 13:00～13:10
進士 五十八(環境学委員長)
- 提言 13:10～13:30 「日本の環境教育推進指針の提言」 小澤 紀美子
(環境思想・環境教育分科会委員長)
- パネルディスカッション 13:30～16:30 「明日への環境教育・アクションプラン」
阿部治(持続可能な開発のための教育10年推進会議)、飯田稔(日本野外教育学会)、小澤紀美子(日本環境教育学会)等の環境思想・環境教育分科会委員を含む、環境教育関係のNPO、NGOの代表者、文部科学省と環境省の環境教育担当官その他、外部パネリストを検討中
- 総合司会：岡島 成行
- 休憩 16:30～17:00
- まとめ 17:00～18:00 進士 五十八 他

2 8	
幹事会	4 2

提 案

日本学術会議北海道地区会議 公開学術講演会の開催

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議北海道地区会議、釧路工業高等専門学校
- 2 後 援 釧路市、釧路市教育委員会
- 3 日 時 平成 19 年 12 月 22 日（土）13:30～16:30
- 4 会 場 釧路市生涯学習センター
- 5 次 第
 - 13:30～13:45 挨拶
山内浩平（学術会議北海道地区代表、北海道大学特任教授、日本学術会議会員（第二部））
釧路市教育長（折衝中）

< 第一部 特別講演会 >

- 13:45～15:00 特別講演「解けた冥王星の謎～新しい太陽系の姿」
講師 海部宣男（放送大学教授、国立天文台名誉教授、日本学術会議 第三部部長）

- 15:00～15:10 休憩

< 第二部 「楽しい理科実験」 >

- 15:10～15:20 挨拶 中村 隆（釧路高専副校長）
- 15:20～15:45 音とメロディーの科学 釧路高専吹奏楽部
- 15:45～16:00 ルービックキューブの不思議 釧路高専建築学科
- 16:00～16:25 ロボットコンテストへの挑戦 釧路高専ロボット研究会
- 16:25～16:30 閉会の挨拶 岸浪建史（釧路工業高等専門学校校長、日本学術会議会員（第三部））

司会：岸浪建史（釧路工業高等専門学校長、日本学術会議会員（第三部））

提 案

シンポジウム「高度情報社会の脆弱性の解明と解決」の開催

- 1 提案者 日本学術会議 副会長 土居 範久
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議、独立行政法人科学技術振興機構
- 2 日 時 平成20年1月8日(火) 10:00—17:00
- 3 会 場 日本学術会議講堂
- 4 プログラム
 - 開会の挨拶 浅島 誠 (日本学術会議副会長)
 - 有本 建男 ((独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター長)
 - 「社会技術研究開発の展望」
 - 総括講演 土居 範久 (中央大学教授、日本学術会議副会長)
 - 「「高度情報社会の脆弱性の解明と解決」の全体像」
 - 基調講演 (調整中)
 - 第1部 報告
 - 村瀬 一郎 ((株)三菱総合研究所主席研究員)
 - 「情報システムのハザードマップの試作」
 - 佐々木 良一 (東京電機大学教授)
 - 「多重リスクコミュニケーターの開発と適用」
 - 岡本 栄司 (筑波大学教授)、
 - 猪俣 敦夫 ((独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター研究員)
 - 「暗号SLAとポータルサイトの研究開発」
 - 山口 英 (奈良先端科学技術大学院大学教授)
 - 「デジタルメディアの権利管理(DRM)に存在するリスク管理を考える」
 - 大野 浩之 (金沢大学教授)
 - 「非常時における情報通信システムについての検討」
 - 松浦 幹太 (東京大学准教授)
 - 「情報セキュリティのための最も効果的な投資方法の追求」
 - 江連 三香、吉永 京子 ((株)三菱総合研究所研究員)
 - 「情報セキュリティに係わる法律的/政策的事項に関する提言」

第2部 討論

- 司 会 (調整中)
- 指定討論者 (調整中)

- 閉会の挨拶 土居 範久 (中央大学教授、日本学術会議副会長)

3 0	
幹事会	4 2

提 案

公開講演会 「医療関連死を考える-解剖に基づく新たな死因究明制度」の開催

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記公開講演会を下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 基礎医学委員会病態医科学分科会
2. 共 催 日本病理学会 日本法医学会
3. 日 時 平成20年3月21日(金) 13:00-17:00
4. 場 所 東大(本郷) 鉄門記念講堂あるいは、医学部本館大講堂
5. 次 第

開催趣旨：

治療中の患者が、本人・家族のみならず医療従事者にとって不慮の転機を迎える際、その死因究明は客観性を保ち、透明性を有しながら、社会が納得しかつ再発防止に十分な効果を有する体制で施行することが求められている。その実現のため、病理学、法医学、臨床医学が協力して、解剖を基盤として施行する死因究明制度の開始に向けて、モデル事業が進んできている。本公開講演会では、死因究明制度のあり方を各方面から市民にもわかりやすくご講演いただき、日本学術会議として社会に提言することを目的としている。

- (1) 開会ご挨拶 金澤一郎(日本学術会議会長)
- (2) 趣旨説明 長村義之(第二部 病態医科学分科会委員長 日本病理学会理事長
東海大学医学部病理診断学教授)
- (3) 公開講演会「医療関連死を考える-解剖に基づく新たな死因究明制度」
司会 深山正久(東京大学医学部病理学), 藤田眞幸(慶応義塾大学医学部法医学)

1. 「医療関連死と法、その在り方：刑法学者からの提言」

診療行為に関連した死亡に係る死因究明制度 の在り方に関する検討会座長

前田雅英(首都大学 都市教養学部 学部長)

追加発言 佐原康之(厚生労働省安全医療安全推進室室長)

2. 「新制度に望むこと、医療関連死に対する医師のとりくみ」

高久史磨(日本医学会会長)

3. 「新制度に望むこと，法律家の立場から」

樋口範雄（東大法学部教授，モデル事業運営委員会）

特別発言：患者・遺族の視点：

辻本好子（医療人権センターCOML 代表）

4. 医療関連死の死因究明の現状

山口 徹（虎の門病院院長

「診療行為 に関連した死亡の調査分析モデル事業」中央事務局事務局長）

5. 解剖による死因究明（病理学の立場から）

長村義之（日本病理学会理事長）

6. 解剖による死因究明（法医学の立場から）

中園一郎（日本法医学会理事長）

特別発言：報道の視点：

出河雅彦（朝日新聞編集委員）

7. 総合討論と提言

（４）分科会の開催

公開講演会開催時に病態医科学分科会を開催予定

3 1	
幹事会	4 2

提 案

国内会議の後援

1 提 案 者 会 長

2 議 案 後援の依頼について回答すること。

3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○ 後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
男女共同参画学協会連絡会第 5 回シンポジウムの後援について	男女共同参画学協会連絡会 第 5 期委員長	科学者 委員会
「第 6 回日本社会福祉学会政策・理論フォーラム」の後援について	日本社会福祉 学会会長	第一部
日本第四紀会 50 周年記念国際シンポジウム Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific の後援について	日本第四紀会 会長	各部
第 33 回全国語学教育学会年次国際大会の後援について	全国語学教育 学会理事長	第一部
第 7 回アジア国際地震学会連合総会の後援について	第 7 回アジア 国際地震学会 連合総会組織 委員会委員長	第三部

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター第 2 回国際シンポジウムの後援について	大阪大学臨床医工学融合研究教育センター長	第二部 第三部
触媒学会創立 50 周年記念「高度選択触媒作用の創出と制御に関する国際シンポジウム」(International Symposium on Creation and Control of Advanced Selective Catalysis as the celebration of 50th anniversary of the Catalysis Society of Japan)の後援について	触媒学会会長	第二部 第三部
第 29 回 IFMSS(International Fetal Medicine & Surgery Society)総会の後援について	第 29 回 IFMSS 総会会長	第二部
「科学技術と産業」国際シンポジウム 2007 の協賛について	日本貿易振興機構（ジェトロ）理事長	第三部

3 2	
幹事会	4 2

提 案

国際会議の後援

- 1 提 案 者 会 長
- 2 議 案 国際会議を後援すること。
- 3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の
行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、
国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、
適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム第4回年次総会

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム 第4回年次総会 英文：Science and Technology in Society <i>forum</i> (略称：STS <i>forum</i>) Fourth Annual Meeting
開 催 時 期	平成19年10月7日～9日(3日間)
開 催 場 所	京都府京都市(国立京都国際会館)
主 催 団 体	特定非営利活動法人STSフォーラム
共 催 団 体	和文：社団法人 科学技術国際交流センター 英文：Japan International Science and Technology Exchange Center
後 援 団 体 (予 定)	内閣府、文部科学省、外務省、経済産業省、 (社)日本経済団体連合会、(独)科学技術振興機構、 (独)産業技術総合研究所、(独)日本貿易振興機構
参 加 予 定 者 数 [参 加 予 定 国]	国外700人、国内300人、計1000人 [83ヶ国1地域]
会 議 内 容	全体会議及び分科会、議論総括
会 議 議 事 録 等	報告書作成・配布予定
開 催 経 費 の 財 源 [募 金 団 体]	会費 50,000 千円 寄付金・スポンサー 108,000 参加費 15,000 計 173,000 特定非営利活動法人STSフォーラム
申 請 者	特定非営利活動法人STSフォーラム 理事長 尾身 幸次
連 絡 責 任 者	特定非営利活動法人STSフォーラム 総務担当 澁谷 慎吾